

| | | | |
|---|------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 研究課題 (テーマ) | | コロナ禍・アフターコロナにおける学科内教育の見える化システムの開発 | |
| 研究者 | 所属学科等 | 職 | 氏名 |
| 代表者 | 環境・社会基盤工学科 | 准教授 | 呉修一 |
| | 環境・社会基盤工学科 | 教授 | 脇坂暢 |
| | | 准教授 | 坂本正樹, 佐伯孝, 久加朋子, 中村秀規 |
| | | 講師 | 端昭彦 |
| 研究結果の概要 | | | |
| <p>新型コロナウイルス (以下, コロナ) の感染拡大により対面授業の禁止, 課外活動の縮小など, 学生教育にとって極めて深刻な影響が昨年より生じていた. 本プログラムでは, コロナのピンチをチャンスに変え, 学生間のつながりを維持し失われた教育機会を少しでも補填するため, 学科内教育の「見える化」に取り組み, 以下の2つを実施した.</p> <p>①SNS・HPでの情報発信の強化</p> <p>従来から発信していた情報に加えて, 講義, 卒論・修論発表会, 現場見学会などの撮影動画をHPで順次公開している. SNSとしてtwitter, インスタグラム, YouTube(右上図)を学科で新たに開設し, これらを駆使してMicrosoftに依存しない(誰でも閲覧可能な)情報発信体制を確立した.</p> <p>②「レポートの書き方」マニュアルのアップデート</p> <p>当学科がH28年度に開発した「レポートの書き方」(右下図)マニュアルをコロナ禍の現状をふまえてアップデートし, 印刷版を配布することで, コロナ禍で教員と接する機会が少なくともレポートの執筆に支障がないようにした.</p> <p>本取り組みの成果として, 学生がウェブ上で現場見学, 卒論・修論発表会などの活動状況を動画で見ることで, 従来よりも多くの経験を共有することが可能となった. また, 学外の高校生や親御さん, 就職先関連企業などにも, 当学科の活動を知ってもらえるので広報活動の価値も高いことが確認された. インスタグラムおよび試験的に実施中の呉研究室のYouTubeの登録者数が100人を超えるなど, 認知が徐々に着実に広がっている.</p> | | | |
| 今後の展開 | | | |
| <p>今後は, 情報コンテンツを更に蓄積するとともに, コロナ禍での実験実習の実施に関するコンテンツを充実する必要がある. また, 本成果を今後の本学のICT, DX教育・研究へと展開させることが重要となってくる. 研究面では, 例えば, 豪雨時の洪水氾濫計算結果のリアルタイム配信などが実施できるようなシステムまで発展させる必要がある. つまり, 学科内の教育の見える化のみならず, 研究成果のリアルタイム見える化をDXを利用し, 飛躍的に進歩させる必要がある.</p> | | | |

